

テーマ1 地域づくりと美術館

〔提案理由〕

- ・多彩な県民文化を創造していくためには、県民が質の高い芸術文化に触れる機会を充実させる必要があるが、現在の県立芸術会館は施設の老朽化（S52開館）や絵画等の十分な展示スペースを確保できない（1, 235㎡、先進施設の平均3, 436㎡）など課題があり、新たな美術館の建設を求める声が強まっている。
- ・一方で、新たな施設（美術館）の整備に当たっては、建築費や将来の維持管理コストなど検討すべき事項が多いため、県民のコンセンサスの形成が必要である。
- ・今後、「芸術会館（県立美術館）基本構想」の策定に向けては、有識者をはじめ多くの県民の声を聞きながら、着実に歩みを進めていく必要がある。今回、地域づくりと美術館というテーマで幅広く意見を聴取する。

〔県民の声〕

- ・県立芸術会館は昭和52年に開設されたが、常設展示スペースがない、県民ギャラリーがないなど十分な施設とは言えず、新たな県立美術館を建設すべきだ。
- ・文化勲章も受賞した日本画家の福田平八郎や高山辰雄を輩出した県として、県立の美術館がないのは寂しい。
- ・大分市美術館が平成11年に開設されており、県の財政状況が厳しい中、県立の美術館が本当に必要か。

〔議論のポイント〕

（1）地域づくりを進めていく上で、美術館にどのような役割を期待するか。

（2）美術館を活かした地域づくりについてどんなアイデアがあるか。

〔議事概要〕

（コンセプト・利用者層・情報発信）

- ・日本全国が美術館ブームであるが、美術館は県の顔である。どこにでもあるような美術館であれば残らない。世界の中でここしかないというものでなければ厳しい。県民がそこ（美術館）に行けば、大分を感じられるということが大事。
- ・子ども、高齢者、中高年女性に絞った美術館作りを考えてはどうか。
（子ども：文化・芸術を教育する場として 高齢者：生涯学習の場として
中高年女性：学ぶ・習う・実践する場として）
- ・子どもたちが行けるようなところ、敷居が高くないもの、子どもたちに行かせる方法も含めて、考える必要がある。
- ・ホームページを充実させ、特に手話通訳、バリアフリー、ユニバーサルデザインに関する情報を提供し、社会的弱者にも配慮しているので来てくださいとアピールしてはどうか。
- ・そもそも、厳しい財政状況の中、美術館を新設することには疑問が残る。他の類似施設との連携や現在の芸術会館の今後の使い方も考慮すべき。

（運営のあり方）

- ・テーマを絞った企画展の実施や、日常的に来場しやすい美術館にすることでリピーターを増やすのも一つの方法。
- ・学校との連携（出前授業・教師の研修、社会見学のコースに入れる等）やボランティアネットワークの拡大（高校生の参画）なども必要。
- ・県内の芸術家を招いて創作教室等を行えば、維持管理費等にも充当できる。
- ・芸術会館には常設展がなく、福田平八郎等の収蔵品を県民が鑑賞することができない。後世に貴重な遺産を伝えて行くことが大事。
- ・日本では子どもに本物を見せる機会がなかなかない。一方、海外では、子どもたちが美術館の中で絵の勉強をしたり、映像やIT技術を使って作品を疑似体験できる施設もある。

- ・親は、スポーツには力を入れるが、芸術には力を入れない。知るべきことを子どもたちに与えないといけないのでは。田舎の子どもが、芸術に触れる仕組み作りが必要。
- ・デジタル画像であれば長期保存ができ、修復作業にも役立つ。

(施設・設備のあり方)

- ・作家が集える場所、ギャラリー的なものを設置してはどうか。
- ・作家を育てる意味でも気軽に作品を販売できる場所がほしい。その売り上げが、維持管理コストの削減につながるのでは。
- ・ありきたりの美術館ではなく、日本間や日本庭園を備えた、日本文化を大切にしたい美術館にしてほしい。そのような場所で、茶会や琴の演奏などができればさらによいのでは。
- ・県出身の著名な芸術家の常設コーナーがあれば、全国から人が集まるのでは。

(立地場所・他の文化施設との関係)

- ・現在の芸術会館は、確かに狭い。しかし、各地にある文化施設（農業文化公園、宇佐風土記の丘）を充実させることも必要では。
- ・場所は、交通の便や駐車場の関係から言って、大分市が良いのでは。周辺部に作って来客が少なくなると困る。